

子供と遊戯活動について (1)

——両親のかかわりを中心に——

The Influence of the Parents' Leisure Activities on Children's play

(1989年4月7日受理)

土谷由美子 谷本 満江 荒木タミ子
Yumiko Tsuchiya Michie Tanimoto Tamiko Araki

Key words: 音楽活動, スポーツ活動, かかわり度

はじめに

子供の生活は、時代とともに変化するものである。現代の子供の生活と、昭和20年代から30年代頃にかけての子供の生活と比べてみれば違いがはっきりするだろう。当時の子供は家の仕事や手伝いをかなりしているし、あそびは外あそびが中心で、グループでのあそびであった。

子供のあそびは大人のアソビのようにレクリエーションとして生活の中で緊張の解消をするというだけの意味でなく、社会性の発達、諸感覚の発達、知的発達、意志の発達、性格の発達、身体の発達がみられ、これらが相対的な関係を保ちつつ総合的に発達していくと考える。子供の生活の中における遊戯活動は、生活そのものであり、この時期の遊戯活動は、生涯の中で最も心身に大きな影響を及ぼし、基盤をつくるのであろう。

幼児期は中枢神経系の発達が最も著しく環境の影響を受けやすい。今回は子供の環境、とくに生活背景で大きく影響すると考えられる家庭での両親の遊戯活動等のかかわりについて検討を試みたので報告する。

研究方法

研究対象は、岡山市内の3幼稚園、4才児～6才児375名（男児171名、女児204名）と、その両親である。(第1表参照)

時期については、昭和63年10月～11月に調査した。それぞれの園を通じてアンケートによって調査を行ない、全て親に記入を依頼した。

調査内容については、子供を中心とした家庭環境、家庭における活動を10項目、両親について音楽、スポーツに関して6項目、子供の遊戯活動に関して11項目、計27項目の調査であった。

表1 標本数

年齢	性	男児	女児	計
4才		47	37	84
5才		72	103	175
6才		52	64	116
計		171	204	375

研究成績

1. 子供に関する各項目、性別・年齢別 割合

第2表は、生活環境、音楽関係、スポーツ関係項目の年齢別・性別の割合を示したものである。

表2 子供に関する各項目 性別・年齢別割合 (%)

項	目	4 才		5 才		6 才		全 体		
		男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	
生活環境	住 宅 状 況	一 戸 建	74	89	81	90	80	84	79	88
		マンション(アパート)	26	11	19	10	20	16	21	12
	両親仕事状況	行 っ て い る	7	43	20	29	24	30	15	32
		行 っ て い な い	93	57	80	71	76	70	85	68
音	楽 器 保 有 率	ピ ア ノ	5	12	4	14	6	18	5	15
		オ ル ガ ン	3	5	3	4	5	4	4	4
		電 子 オ ル ガ ン	4	5	7	7	4	1	5	5
		バ イ オ リ ン	1	0	0	0	1	1	1	1
		鍵 盤 ハ ー モ ニ カ	10	9	9	5	12	7	10	6
		笛	7	9	9	10	10	8	9	9
		ハ ー モ ニ カ	20	12	13	12	19	14	16	13
		タ ン プ リ ン	18	16	17	17	9	17	15	17
		琴	0	0	1	0	0	1	0	0
		カ ス タ ネ ッ ト	24	27	31	27	28	25	28	26
そ の 他	8	5	6	4	6	4	7	4		
楽	音 楽 視 聴 時 間	全 く 聴 か な い	32	11	25	14	39	18	29	15
		30 分 以 内	61	67	59	69	57	41	59	58
		30 分 ~ 1 時 間	12	22	14	14	4	20	10	17
		1 ~ 2 時 間	2	0	12	2	0	2	1	2
		2 ~ 3 時 間	2	0	0	1	0	18	1	7
		3 時 間 以 上	0	0	0	0	0	1	0	1
活	楽 器 使 用 時 間	全 く 使 わ な い	63	40	70	23	59	19	65	23
		30 分 以 内	35	37	30	55	35	39	33	51
		30 分 ~ 1 時 間	2	3	0	21	6	22	2	19
		1 ~ 2 時 間	0	0	0	1	0	16	0	5
		2 ~ 3 時 間	0	0	0	0	0	2	0	1
		3 時 間 以 上	0	0	0	0	0	2	0	1
動	歌 唱 種 別	幼 稚 園 で 習 っ た う た	57	52	35	50	37	53	41	51
		ア ニ メ の 主 題 歌	30	15	36	26	37	27	35	25
		歌 謡 曲	8	15	8	8	3	2	6	7
		コ マ ー シ ャ ル ソ ン グ	4	18	19	12	18	12	15	13
		そ の 他	1	0	2	4	5	6	3	4
お け い こ 実 施 率 (音 楽 活 動)	し て い る	9	26	10	45	17	54	12	45	
	過 去 に し て い た	0	3	3	3	0	2	1	2	
	し て い な い	91	71	87	52	83	44	87	53	

両親のかかわりを中心に

項		目	4 才		5 才		6 才		全 体	
			男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
ス	おけいこ実施率 (スポーツ活動)	している	40	28	38	35	60	33	45	34
		過去にしていた	0	3	3	2	2	6	2	3
		していない	60	69	59	63	38	61	53	63
	遊 び 場 所	家 の 中	29	36	29	35	26	29	28	34
		近 く の 公 園	21	23	21	23	21	26	21	24
		道 路	18	9	18	10	21	11	19	10
家 の 庭		31	32	31	31	32	34	31	31	
屋 上		1	0	1	0	0	0	1	0	
	そ の 他	0	0	0	1	0	0	0	1	
ポ 遊 び 内 容 ツ	ボ ー ル ゲ ー ム (サッカー・野球) (ドッチボール)	す き	35	0	29	5	50	7	37	4
		ふ つ う	37	34	45	30	44	39	42	34
		好 ま ない	28	66	26	65	6	54	21	62
	静 的 あ そ び (砂あそび・積木)	す き	73	59	80	55	72	52	76	55
		ふ つ う	27	38	18	41	28	40	23	40
		好 ま ない	0	3	2	4	0	8	1	5
	固 定 遊 具 (ブランコ・鉄棒) (スベリ台)	す き	37	68	50	74	67	63	52	70
		ふ つ う	57	29	42	24	31	33	43	28
		好 ま ない	6	3	8	2	2	4	5	2
	ご っ こ あ そ び (鬼ごっこ・かけっこ) (かくれんぼ)	す き	37	41	44	48	67	61	50	50
		ふ つ う	56	54	52	44	31	39	45	46
		好 ま ない	7	5	4	8	2	0	5	4
ボ ー ル ・ な わ あ そ び	す き	32	33	21	40	49	67	33	47	
	ふ つ う	34	58	66	54	47	32	49	48	
	好 ま ない	34	9	13	6	4	1	18	5	
自 転 車 あ そ び	す き	64	57	71	75	80	67	72	67	
	ふ つ う	36	43	22	20	16	28	24	27	
	好 ま ない	0	0	7	5	4	5	4	6	
活 あ そ び 相 手	友 達	よ く あ そ ぶ	77	70	78	77	93	87	82	79
		ふ つ う	20	22	22	23	7	13	17	20
		あ そ ば ない	3	8	0	0	0	0	1	1
	兄 弟 ・ 姉 妹	よ く あ そ ぶ	67	69	67	66	57	54	64	64
		ふ つ う	21	28	28	32	37	39	29	32
		あ そ ば ない	12	3	5	2	6	7	7	4
	父	よ く あ そ ぶ	70	46	56	47	65	56	63	50
		ふ つ う	27	51	39	48	35	39	34	45
		あ そ ば ない	3	3	5	5	0	5	3	5
	母	よ く あ そ ぶ	64	65	39	53	47	65	48	59
		ふ つ う	31	30	47	45	49	32	43	38
		あ そ ば ない	5	5	14	2	4	3	9	3
祖 父 母	よ く あ そ ぶ	44	35	33	41	37	33	37	37	
	ふ つ う	41	54	51	39	53	51	49	46	
	あ そ ば ない	12	11	16	20	10	16	14	17	

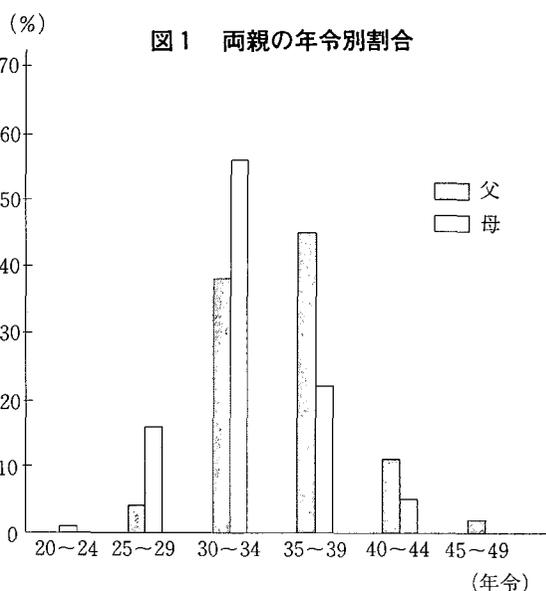
住宅では80%以上が一戸建住宅での生活であり大半が専業主婦であった。楽器の保有率については、カステネット、タンブリン、ハーモニカの保有率が高く、女兒はピアノが高かった。楽器の使用時間については、男児の平均65%の児が全く使用せず、使用しても30%の児が一日でわずか30分以内であった。女兒については、6才児で楽器使用の児が80%と高頻値であった。更に40%の児が一時間以上の使用率を示していた。音楽を聴く時間についても楽器使用時間と同じ傾向が示された。2項目については、性差が顕著に示されていた。歌唱種別をみると幼稚園で習った歌については女兒が51%、テレビを通してのアニメの主題歌は男児が35%とそれぞれ高い割合を示していた。おけいごとについては、音楽関係においては女兒、スポーツ関係においては男児の割合がそれぞれ加齢するごとに高かった。あそび場所については、家の中であそぶは女兒が高く、道路であそぶは男児が高かった。家の庭であそぶは、男女児30%を示していた。あそぶ内容については、男児はつみき、砂あそびに高頻値を示し、特に6才児についてはあそぶ内容が多様化の傾向にあり、サッカー、野球、ドッジボールのあそびは50%であった。女兒はブランコ、自転車、砂あそびが高く、サッカー等動きのはげしいあそびは低かった。あそぶ相手は友達とあそぶが男女児いずれも高頻値を示していた。男児は父親、女兒は母親とあそぶ割合も高かった。

2. 両親に関する項目別、割合

第1図は両親の年齢、第3表Aは両親の音楽・スポーツの現在の実態、親子単位であそぶについては第3表B、第3表Cについては、音楽鑑賞・スポーツ観戦の割合をそれぞれ示したものである。父親の年齢においては30代後半に、母親においては30代前半に高い分布を示していた。現在の音楽活動では父親においては19%、母親は38%、スポーツ活動においては父親22%、母親19%と、音楽活動は母親、スポーツ活動では父親の実施割合が高かった。親子の実施度においては、音楽活動では父親「しない」の答えが60%と高く、母親では19%と一緒に実施していた。スポーツ活動では、23%の父親が子供と一緒に実施していた。又、鑑賞・観戦については、鑑賞が27%、観戦が39%であった。中でも女兒5、6才

表3 両親に関する項目割合 (%)

項		目	父	母	
A	現在実施率	音楽活動	している	19	38
			していない	81	62
		スポーツ活動	している	22	19
			していない	78	81
B	親子単位実施率	音楽活動	よくする	8	19
			ふつう	34	41
			しない	58	40
		スポーツ活動	よくする	23	14
			ふつう	46	52
			しない	31	24
C	鑑賞・観戦実施率	音楽活動	している	23	31
			していない	78	69
		スポーツ活動	している	26	28
			していない	74	71



で鑑賞30%以上、6才男児で観戦42%と高くなっていた。

3. 音楽活動における両親のかかわり度の検討

音楽活動について、両親と子供のかかわりについては χ^2 検定によって検討した。各項目について、かかわり達成度をみるため指数換算した。(第4表、第2図参照)各項目「ない」を0点、「ふつう」「過去にしていた」を1点、「よくする」「している」を2点で換算し、あてはまる人数を集計し、下記の様な計算式で指導を算出した。

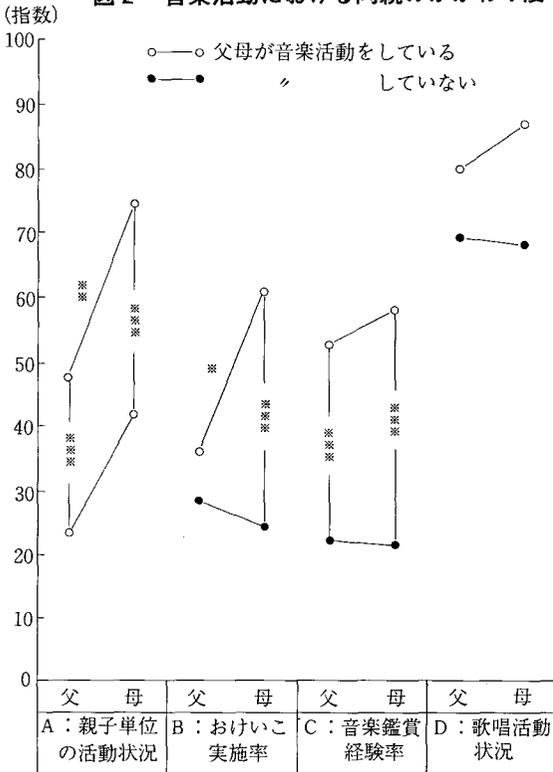
つまり、

$$\text{かかわり度指数} = \frac{\{0 \text{点} \times (\text{人数})\} + \{1 \text{点} \times (\text{人数})\} + \{2 \text{点} \times (\text{人数})\}}{\text{全人数}}$$

の通りである。

第4表Aは、現在音楽活動している両親を中心に、親子単位の活動状況を示したものである。現在活動していない両親に比し、活動している両親が、子供と一緒にしている割合が高く、かかわり度に有意性が認められた。更に、活動している父

図2 音楽活動における両親のかかわり度



* P<0.05 ** P<0.01 *** P<0.001

表4 音楽活動における両親のかかわり度

A: 親子単位の活動状況 (%)					
両親の音楽活動		親子活動			χ^2
		よくする	ふつう	しない	
父	している	25	45	30	***
	していない	7	33	60	
母	している	63	23	14	***
	していない	17	49	34	

B: おけいこ実施率 (%)				
両親の音楽活動		おけいこ		χ^2
		している	過去にしていた	
父	している	33	5	62
	していない	27	2	
母	している	60	2	38
	していない	23	2	

C: 音楽鑑賞経験率 (%)				
両親の音楽活動		鑑賞経験		χ^2
		ある	ない	
父	している	52	22	***
	していない	48	78	
母	している	58	42	***
	していない	21	79	

D: 歌唱活動状況 (%)					
両親の音楽活動		歌唱活動			χ^2
		よく歌っている	ふつう	いいえ	
父	している	61	37	2	
	していない	45	47	8	
母	している	76	20	4	
	していない	43	49	9	

*** P<0.001

母の間では、母のかかわり度が父に比し有意に高かった。おけいこ（音楽）は第4表Bに示した通りである。現在活動している両親の児が、おけいこしている割合が高く、特に現在活動している母親の児のおけいこ割合が有意に高かった。活動している父母の間において、母親のかかわりが父に比し有意性が認められた。

音楽鑑賞については第4表Cに示した通りである。活動している両親が子供と音楽鑑賞する割合が高頻値で有意なかかわりが認められた。第4表Dは歌唱活動について示した。音楽活動している両親の児が家でもよく歌い、特に、母親のかかわり度が有意に高かった。

4. スポーツ活動での両親のかかわり度の検討

スポーツ活動について両親と子供のかかわりについては χ^2 検定、t検定によって検討した。（第4図参照）各項目については、かかわり達成度をみるため指数換算した。（第5表、第3図参照）換算方法は上記と同様である。

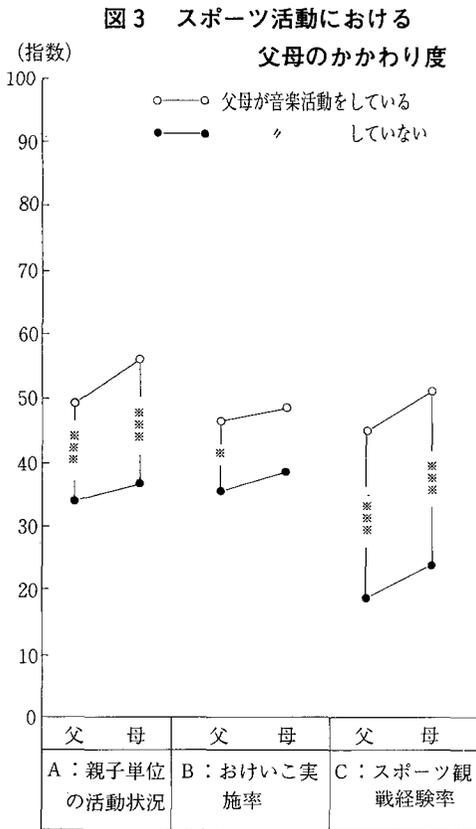
第5表Aは、現在スポーツ活動している両親を中心に、親子単位の活動状況を示したものである。活動している両親が、子供と一緒にする割合が高くかかわり度に有意性があつた。スポーツのおけいこについては第5表Bに示した通りである。活動している両親の児に、おけいこ率が高く、特に父親のかかわりの割合が有意に認められた。スポーツ観戦については、第5表Cに示した通りである。活動している両親の児に、ス

表5 スポーツ活動における父母のかかわり度

A：親子単位の活動状況 (%)					
両親のスポーツ活動		親子活動			χ^2
		よくする	ふつう	しない	
父	している	28	42	30	***
	していない	13	43	44	
母	している	32	48	20	***
	していない	8	52	40	

B：おけいこ実施率 (%)					
両親のスポーツ活動		おけいこ			χ^2
		している	過去にしていた	していない	
父	している	46	1	53	*
	していない	33	4	63	
母	している	47	3	50	
	していない	37	3	60	

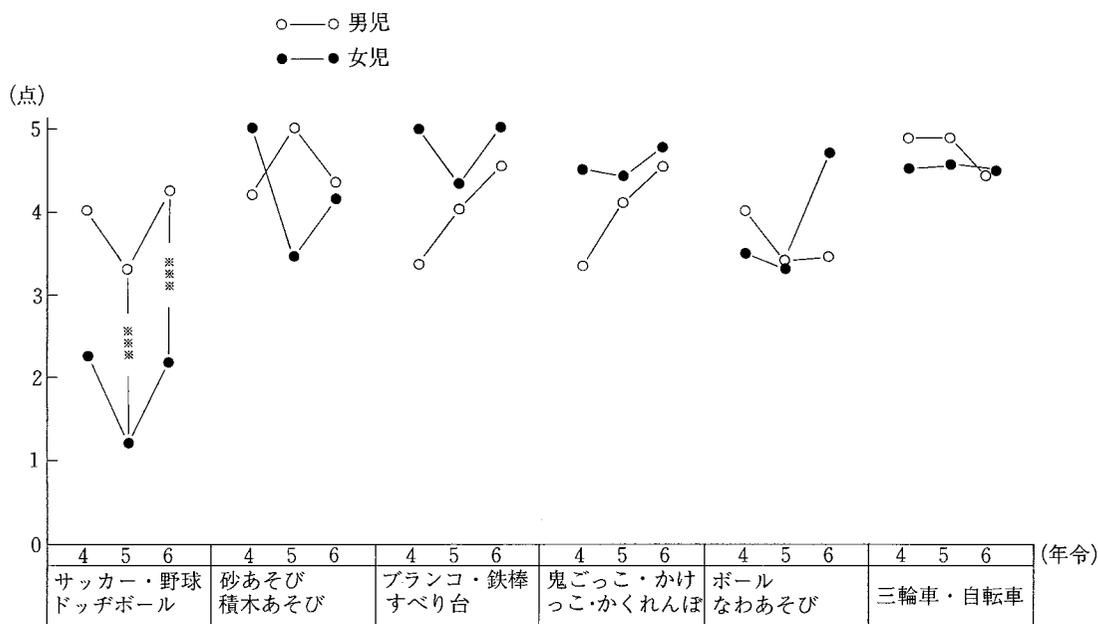
C：スポーツ観戦経験 (%)				
両親のスポーツ活動		観戦経験		χ^2
		ある	ない	
父	している	45	55	***
	していない	18	82	
母	している	51	46	***
	していない	24	76	



※ $p < 0.05$ *** $p < 0.01$

※ $p < 0.05$ *** $p < 0.001$

図4 あそびの内容



*** p < 0.001

スポーツ観戦への経験割合が高く、有意なかかわり度が認められた。第4図は、親子単位での活動状況と、あそび内容の関連を性別・年齢別に示した。経験度を数量化して表示するため、次の様に処理した。つまり遊びについて「好き」を5点、「ふつう」を3点、「好まない」を1点と換算し、それぞれ検定を加えた。5、6才児で父親とスポーツ活動をしている男児が、それぞれの女兒に比し有意性が認められたのは、サッカー、野球、ドッジボールであり、運動量の多いあそびと父親のかかわりが認められた。4才男児においては、父親と活動している児で、固定遊具のあそびに比し自転車に乗ってあそぶ割合が高く、更に有意なかかわり度が認められた。

5. 両親の年齢別にみた遊戯活動へのかかわり度

第6表は両親の年代別遊戯活動のかかわり度を示したものである。父母を20代、30代、40代の年齢別に遊戯活動と子供に対してのかかわりをみた。

第6表Aのスポーツ活動について、30代、40代の父は、母に比べて実施割合が高く、しかも有意性が認められた。第6表Bは、親子単位の実施状況であるが、30代において、音楽活動、スポーツ活動は母親が父親に比し、子供に対してのかかわり度が高く、有意であった。第6表C、第6表Dは、おけいごと、音楽鑑賞、スポーツ観戦について示したものである。いずれもスポーツ活動への参加割合が、各年代で音楽活動に比し高かったが、有意性はなかった。

表6 両親の年齢別遊戯活動のかかわり度 (%)

項 目		父 母 の 年 令		20 代		30 代		40 代	
		父	母	父	母	父	母		
A	現在の音楽活動	している	7	8	15	15	7	7	
		していない	93	92	85	85	93	93	
	現在のスポーツ活動	している	40	17	43	18	43	0	
		していない	60	83	57	82	57	100	
B	親子単位音楽活動	よくする	14	25	7	24	4	7	
		ふ つ う	43	53	34	45	33	29	
		しない	43	22	59	31	63	64	
	親子単位のスポーツ活動	よくする	29	14	18	14	18	15	
		ふ つ う	43	57	42	51	42	14	
		しない	28	29	40	35	40	71	
C	音楽に関するおけいこ	している	8	16	31	33	13	29	
		過去にしていた	7	0	2	3	0	0	
		していない	85	84	67	64	87	71	
	スポーツに関するおけいこ	している	36	42	42	40	30	25	
		過去にしていた	0	3	2	2	3	0	
		していない	64	55	56	58	67	75	
D	音楽鑑賞経験	あ る	7	19	30	30	16	8	
		な い	93	81	70	70	84	92	
	スポーツ観戦経験	あ る	29	25	30	30	20	15	
		な い	71	75	70	70	80	85	

※ P<0.05 ※※※ P<0.001

考 察

子供の生活は、すべて遊戯活動であるといわれるほど、遊戯活動は子供にとって心身の発達の過程で重要な意味をもっている。

子供の発育、発達は順を追うが、最も発達するのは神経系である。神経細胞の樹状突起がさかんに発達し、刺激に応じて神経回路網が作られてゆく。仲間や遊戯道具に恵まれた環境で育つと、神経細胞の樹状突起の数がふえるのであろう。受験勉強や学習塾でトレーニングされる能力は、左脳教育だといえる。また最近の知見によれば、右脳の働きは、左脳の知に対し、空間認知や音楽、絵画など芸術的な働きに対してよく働き、情の分野ともいわれている。遊戯活動は、空間での身体制御や情緒的な満足と相まって右脳にも大いに刺激を与えると考える。そして、子供にとって遊戯活動の条件は、自発的な興味や関心に支えられ、生き生きと活動することであり、更に、子供の豊かな感性（情操）と創造性を培い、精神的活動を高めると思われる。

音楽関係で楽器保有率、使用、音楽を聴く、歌唱の実態においては、男児に比し、女兒が各項目での割合は高い。特にピアノは女兒の保有率が、各年齢階級で高かった。

この時期は、視聴覚器管や手、指の運動機能の発達が活動化してくる時期でもあると考えられる。女兒が

男児に比し、静的な音楽あそび活動を好む割合が高いが、身体の発達に伴い生活のリズム、身体のリズム、ことばのリズム等の、リズムを獲得したり、更に、レコード、ラジオ、テレビ等により、身体や感覚、脳に刺激を与えることにより、全身のリズム感覚を女兒が早期に養うものと思われる。

あそび場所、あそび内容、あそび相手、ごっこあそびの実態については性差、年齢差が各項目にあるが、住宅、共働き等のかかわりも十分考慮する必要がある。

あそび内容においても、自転車、砂あそび、つきき、ブランコ等を好んであそんでいるが、グループあそびの必要性を求めずに一人あそびもできるあそびが問題点と思われる。6才男児でサッカー、野球で50%、女兒でボール、なわとびが67%、筋力の強さとスピード等が強調されるあそびは男児、タイミングやリズム感等、小さな筋肉を必要とするのは、女兒が好んであそんでいると考えられる。

あそぶ相手は、友達、兄弟(姉妹)で、あそぶ率が高かった。最近では、あそび集団の人間関係構造も変わってきたが、子供は言語の発達や運動の発達によって生活空間が拡大し、複数の友達と活発な運動あそびを展開している。友達とあそぶためには、共通の言葉やルール、それを守る協力的態度や忍耐力が要求されながら、友達を通して社会性が養われたり、友達とあそんでいる中で自分の能力を認めたり、自主性が身につくと考えられる。

父母の年齢分布では30代が両親で高頻値を示していた。現在の活動実態において、音楽活動は母親、スポーツ活動は父親の活動割合が高かった。親子単位の活動においては、音楽活動は父親約40%、母親60%が何らかの形で子供と音楽を通じて接している。

一般に音楽や美術の能力は、人が生まれ持っているもの、つまり素質が重視される傾向にあるが、それが能力の全てではないであろう。親から受けついでもの、すぐれた教育とともに、環境の重要性が考えられる。子供をとりまく環境に豊かな音楽があれば、音の刺激やリズムの刺激を受け、音楽活動を活発に行なうことが可能であると思われる。スポーツ活動においては、約70%の父母が、子供と一緒にいる。音楽鑑賞は約30%、スポーツ観戦は約40%が経験していた。

母親は遊戯活動への必要性を感じながら、毎日の家事、育児等の時間に制約されたり理由などから参加率が低くなっていると思われる。父親は、グループが求めやすいこと、仕事のストレスの解消、体力維持の必要性等理由は色々あるが、母親と違い、自由に行動可能な点などから、スポーツ活動に参加が高いように思われる。子供にとって母親は、情緒の安定が得られる愛情の基地であり、又父親からは、社会のルールや基本、社会人としての役割りや生き方等を学んだり子供にとっては男性のモデルであると考えられる。

現在、活動実施している父母を中心に子供に対してのかかわりを考えると、子供と一緒にする、音楽鑑賞、スポーツ観戦、おけいこごとについての項目で、現在活動している両親が子供に対してのかかわり度が高く有意性が認められた。子供を取りまく生活環境としての家庭、親は、まさに命の泉、心身のエネルギー源として重要な意義と重さを持つものと考えられる。そして子供が家庭生活・環境で自然に豊かな情緒、新鮮な感動と共感を身につけ、親より学びとるのは、親のことばでは決してなく、その姿や活動動作そのものであると考える。社会環境、生活環境の影響で子供の生活の形態や、遊戯活動の方法、質が変わっても彼らは、その環境下での遊戯活動を見つけたす能力があるが、この能力は本能的なものでなく、幼児期からの学習結果であろう。特に複雑化、又環境変化のはげしい社会の中では、子供自身ができるだけ多く経験することが必要条件となるであろう。

幼児期の子供が、日常、遊戯活動に夢中になっているときは、確実に、思考力、応用力、創造性の知的発達をなしていると言われ、自分の身体を自由自在に動かし、上手に扱えるよろこびは、大人以上のインパクト

トを生活に与える様である。

ま と め

遊戯活動の子供，父母の実態，かかわりについて次の様な関連をみた。

1. 音楽活動は女兒の割合が高く，スポーツ活動は男児の割合が高かった。
2. 音楽のおけいこは女兒，スポーツのおけいこは男児の割合が高かった。
3. 父はスポーツ活動，母は音楽活動への参加が高く，父は70%，母は60%の割で子供と遊戯活動を実施していた。
4. 現在，遊戯活動している両親は，子供に対してのかかわり度が高く有意であった。
稿を終るにあたり，御協力，御指導いただきました平松先生，北川先生に謝意を表します。

文 献

1. 小関康之：子供の発達と家庭 中央法規出版
2. 正木健雄：からだをみつめる 大修館
3. 日本保育学会：保育者養成 フレーベル館
4. 日本保育学会：第39回大会研究論文集
5. 浅香淳：季刊 音楽教育研究 54
6. 浅香淳：季刊 音楽教育研究 55
7. 浅香淳：季刊 音楽教育研究 56
8. 浅香淳：季刊 音楽教育研究 57
9. 日本体育学会編：体育の科学 1981 Vol 31・4
10. 日本体育学会編：体育の科学 1981 Vol 31・5
11. 日本体育学会編：体育の科学 1988 Vol 38・8
12. 佐野豪：楽しい運動あそび 大修館
13. 西頭三雄：遊びと幼児期 福村出版
14. 田中恒男：子供の精神衛生 杏林書院
15. 肥田野直：統計学 培風館
16. 波中忠郎：統計の手引 槇書店